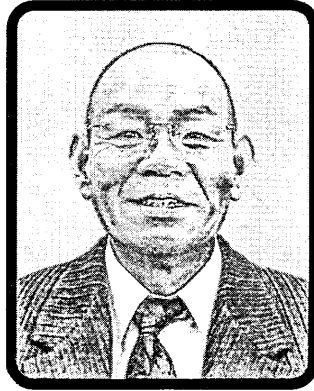


追悼



中本道昭先生 (1943-2007 年)

中本道昭先生の逝去を悼む

健康スポーツ教育センター長（平成 17 年～19 年）の中本道昭教授は、平成 19 年 9 月 17 日に逝去された（享年 64 歳）。中本先生は、センター長に就任後、特に体育施設の充実に力を注がれ、附属中学・高校との連携にも率先して行動され、授業の改善に取り組まれました。

昨年の 4 月の始め頃、風邪の症状を訴えられ、近畿大学奈良病院に入院されました。肺に水が溜まっているとの連絡を受け、検査の日々が続けられました。病院に見舞いに行きますと、声の調子が悪く、カスレ声で苦しそうにも見えましたが、色々と健康スポーツ教育センター内のことを心配して頂き、頑張るようにと励まされていました。

私は 9 月中旬に関西学生卓球連盟選抜選手の中国（錦州市）遠征合宿を行っていましたが、9 月 17 日帰国の朝に電話がかかり、中本先生が肺ガンで逝去されたと突然の一報が入り、驚きとともに深い悲しみへと変わりました。

中本先生は、昭和 18 年 7 月 31 日和歌山でお生まれになり、昭和 38 年 3 月和歌山県立粉河高校卒業、昭和 42 年 3 月日本体育大学体育学部を卒業されました。平成 15 年 4 月から健康スポーツ教育センター教授に就任され勤続 41 年の永きにわたり、近畿大学に従事されました。この間、大学においては、体育会ゴルフ部の監督として指導、教育にあたり弱小クラブであったゴルフ部を日本一に引き上げ、全国に近畿大学ゴルフ部の名を上げられました。現在では、日本プロゴルフ界で活躍中の現役選手も多く、その功績は高く評価されています。先生はお酒が大好きなうえ、カラオケも得意で、なかでも演歌を歌わせれば、プロ級の腕前でありました。学生指導のモットーは、コミュニケーション能力を高めることであり、日頃から学生への接し方は、やさしく、心の通う教育でありました。学生達も、それに答え、優秀なプレイヤーが続出しました。日本代表監督として海外にも行かれ、日本とアメリカとの大学間のゴルフ交流にも積極的に進められ、研究においても長期にわたり、青少年期における特発性側弯症の研究にプロジェクトチームを作り、大阪府下の中学校へ出向いてデータを積み重ねてこられました。その教育研究に対する情熱とコミュニケーション能力の巧みさで、チームの調整役となり、役目を果たしてこられました。また、近年では大学生活協同組合の理事長としても、忍耐強く、その上席を全うされて来られました。同じセンターの仲間として、何でも相談でき、古い習慣にとらわれず新しいものを積極的に取り入れる進取の気性がある先生で、私もずいぶん刺激を受け励まされてきました。今後は故人の遺志を継ぎ、健康スポーツ教育センターを発展させるようにつとめてまいりたいと思います。ここに、在りし日の先生のご功績に敬意と感謝の意を表し、安らかなご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（健康スポーツ教育センター長代行 高島規郎）